

## 【本データベースを使って作成】

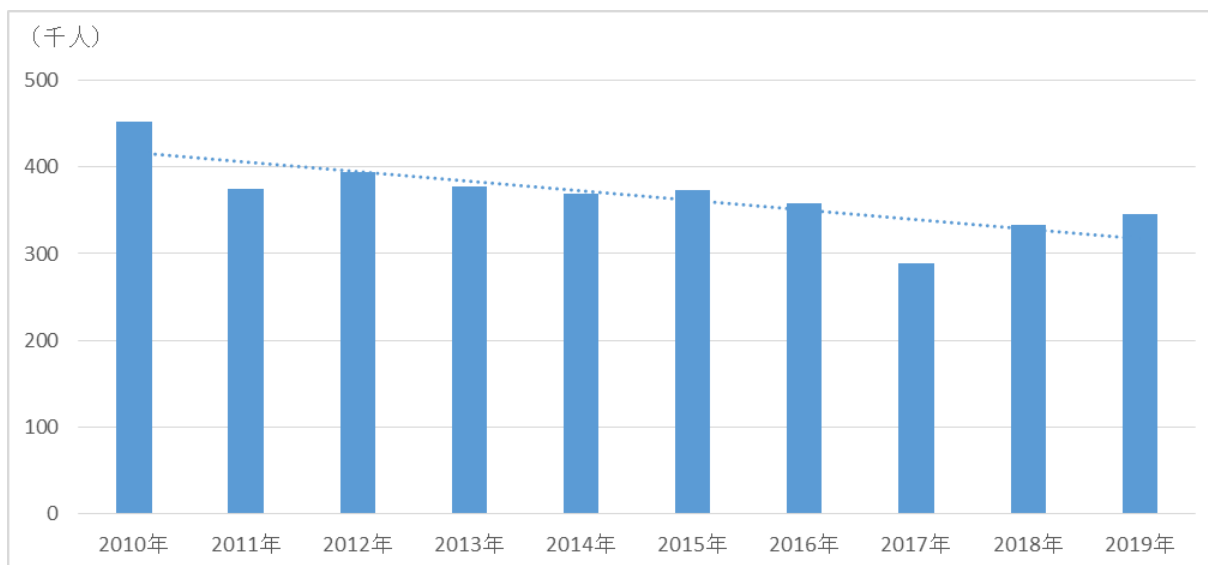
### ■2019年度 カテゴリー別面積1㎡当たり年間入場者数

カテゴリー	施設数	面積 (㎡)	年間入場者数 (人)	面積1㎡当たり 年間入場者数(人)
テーマパーク	17	8,418,394	42,994,450	5.1
遊園地	31	12,834,897	19,639,234	1.5
動物園	52	12,088,407	27,961,994	2.3
水族館	42	728,761	29,362,733	40.3
植物園	28	6,494,237	8,871,859	1.4
博物館・美術館	52	1,803,208	25,436,711	14.1
科学館・児童館	16	2,150,452	7,381,753	3.4
企業PR施設	16	191,057	13,387,094	70.1
農業・観光牧場	17	6,330,783	5,784,362	0.9
観光物産	6	540,977	12,845,504	23.7
タワー・展望台	11	65,323	8,468,865	129.6
アクア・ウォーターパーク	8	1,592,244	2,253,359	1.4
日帰り温浴施設	10	118,520	4,204,715	35.5
国営公園	13	27,267,000	15,922,977	0.6
庭園	12	2,610,461	6,750,370	2.6
レクパーク	46	58,473,317	30,529,757	0.5

### ■2019年度 カテゴリー別1日最大入場者1人当たりの占有面積

カテゴリー	施設数	入場者1人当たり 占有面積(㎡)
テーマパーク	6	22.6
遊園地	23	33.9
動物園	40	17.3
水族館	28	1.5
植物園	20	30.5
博物館・美術館	38	2.0
科学館・児童館	10	19.5
企業PR施設	6	2.1
農業・観光牧場	13	26.8
タワー・展望台	7	1.7
アクア・ウォーターパーク	7	2.3
日帰り温浴施設	9	3.9
国営公園	11	53.5
庭園	9	12.7
レクパーク	39	88.6

## ■某施設の年間入場者数の推移と集客要因



2010年度 豪雪の風評被害があったと思われる

2011年度 高速道路特別割引等廃止、競合施設リニューアル、動物パフォーマンス休止

2012年度 動物パフォーマンス再開、地域の大型イベント期間中に小・中・高校生無料化

2013年度 地域イベントの効果があつた半面、豪雨災害に見舞われた

2014年度 消費税増税による入館料値上げ、高速道路割引改定、近隣地域の豪雨災害

2015年度 シルバーウィークの影響、雪用タイヤ規制の影響

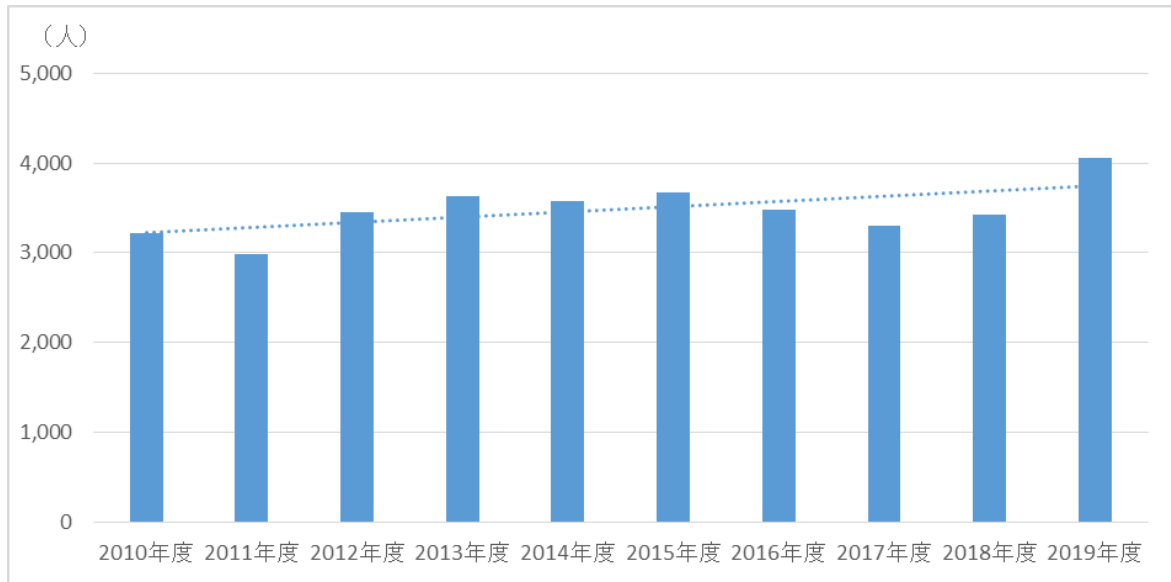
2016年度 前年度のシルバーウィークの反動、鳥インフルエンザの影響

2017年度 動物パフォーマンス休止、集客エリアに競合施設オープン

2018年度 動物パフォーマンス再開があつたものの商圈が豪雨災害に遭う

2019年度 台風被害で夏休み期間の入館者は減少するも暖冬で冬季入館者が増加

■某施設（遊園地）の1営業日当たり平均入場者数の推移



2010年度 新規アトラクション導入

2011年度

2012年度 新規アトラクション導入

2013年度 新規アトラクション導入

2014年度 新規アトラクション導入

2015年度

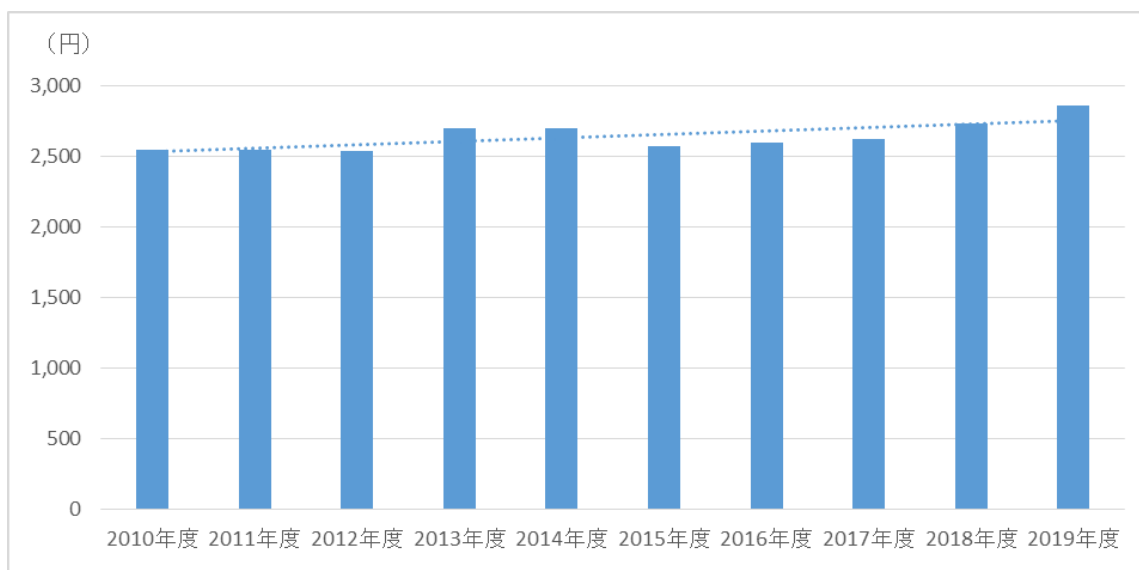
2016年度 新規アトラクション導入及び既存アトラクションリニューアル

2017年度

2018年度 新施設の人気に加え、2年目となるイベントが定着

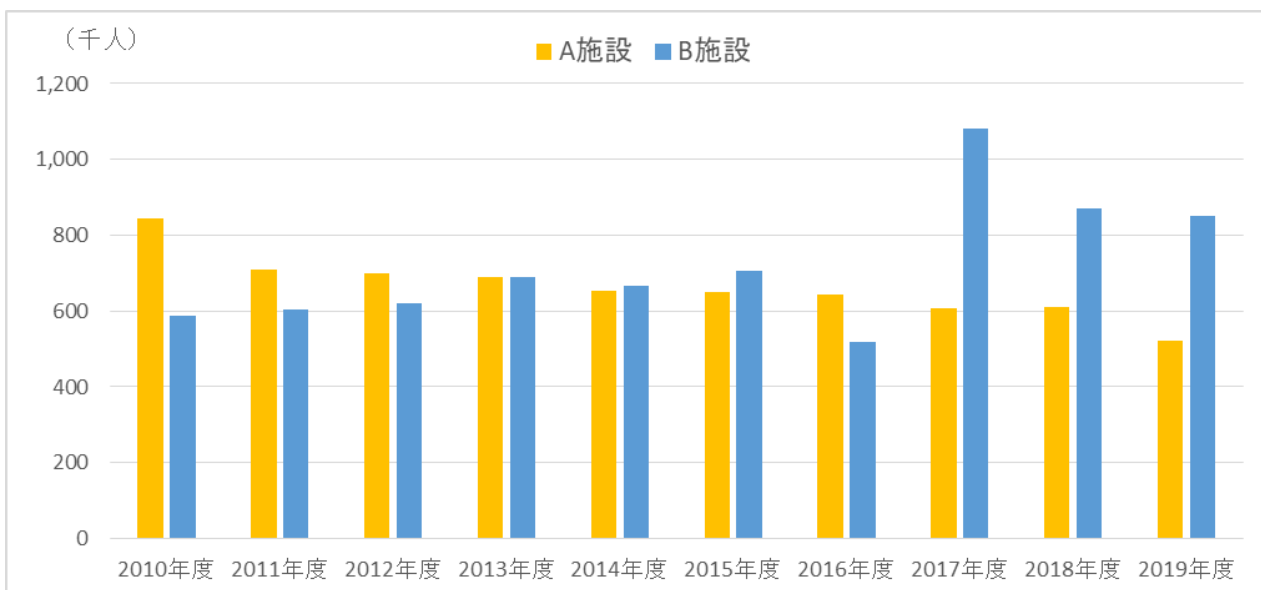
2019年度 コロナ感染防止のための臨時休園で年間入場者数は前年を下回る

## ■某施設の年間売上高を年間入場者数で除した数値の推移



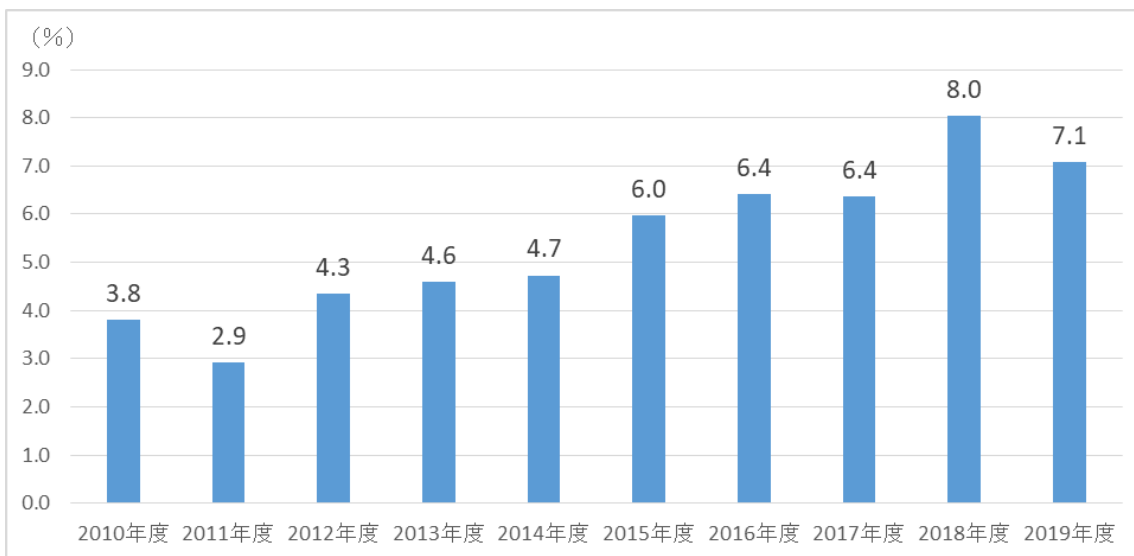
- 2010年度 特定契約先へのチケット割引販売がプール利用者の増につながる
- 2011年度 週末に悪天候が重なり、その対策を前もって講じることができていなかった
- 2012年度 5、7月の繁忙期に大きく落とした
- 2013年度 新規アトラクション導入
- 2014年度 5月と10月が天候に恵まれた
- 2015年度 既存アトラクションのリニューアル及び新規アトラクション導入
- 2016年度 設備投資が修繕中心となり集客効果のある投資ができなかった
- 2017年度 催事イベントが好評
- 2018年度 イベントが好評。入園料金を値上げした
- 2019年度 コロナ禍の影響で年間売上高、年間入場者数は前年を下回る

■競合する同カテゴリー施設の年間入場者数の推移



※「B施設」は2016年度下期を休館し、2017年度にリニューアルオープン

■回答施設の平均インバウンド比率の推移（0%回答除く）



【回答施設数】

2010年度（105）、2011年度（117）、2012年度（133）、2013年度（165）、2014年度（202）、2015年度（171）、2016年度（193）、2017年度（214）、2018年度（178）、2019年度（181）